報　告

神戸市文書館における学校連携の取り組み

井谷　誠司

１．はじめに

神戸市文書館は、平成元年（1989）６月の開設以来、『新修神戸市史』の編集・刊行を主軸として、神戸市域の歴史資料の収集・保存・公開・活用事業を展開してきました。また、歴史的公文書の保存に関した社会的危機感を受け、現在（仮）神戸市歴史公文書館の建設に向けて、資料整備を鋭意進めている状況です。近い将来には、現在よりも一層公文書館的な性格を強くしていくものと思われます。

こうした現在の事業展開のなかで、収蔵資料活用の側面からみて、重要な事業展開のひとつとして、学校連携の視点は避けることができないと考えられます。そこで、当館では、小学校３年生および４年生を対象として、ある時期の神戸のまちの風景を切り取った画像の提供を試行的に実施しました。

２．小学校３年生に対する学習支援について

（１）基本的な支援の枠組みについて

神戸市内の小学３年生では、３学期の期間に開港以降の神戸の歴史を生活の移り変わりとともに学習することとされており、義務教育の９年間のなかで、地域の歴史をじっくりと学べる貴重な機会となっています。

そこで、児童にとって分かりやすい教材・資料の提供に関して、ベテラン教員でもある現場の校長先生方にヒアリングを行った結果、次のような留意点の指摘がありました。

第一には、３年生では、「地図を読む」ということは難しいとの指摘です。地図を教材のメインにすることは困難であり、写真を提供する方が望ましいとのことでした。

第二には、写真を教材として使用する際には、昔の写真だけでなく、現在の同じ場所の写真があった方が児童にとっては分かりやすいとの指摘です。現在と昔を同時に提示できれば、より望ましいとのことでした。

第三に、先生方がより具体的に理解し、児童への説明を容易にできるように、少し背景知識もあわせて提供した方がよいとの指摘もありました。

以上の指摘を踏まえて、明治以降の神戸港の発展を一覧できる資料の提供、周辺町村との合併の経緯の分かる資料の提供、神戸の中心街区の形成に関ってきた生田川・湊川の付け替えとそれに伴う神戸の中心市街地の形成、及び戦後の海面埋め立て事業に関する資料・写真を提供することとしました。また、『わたしたちの神戸３年』のどの頁で、その写真が使えるのかを整理し、提供することとしました。

実際に提供した主な写真や資料は次のようなものがあります。

〇生田川付け替え関連写真

①開港神戸之図（部分）（過去：旧生田川付近）

②暗渠となり、上部が公園であった頃の生田川（過去）

③④新神戸駅下の苧川との合流点とその下流の様子（現在）
⑤新神戸のホテルからフラワーロードを望む（現在）
⑥三宮歩道橋より阪急（旧そごう）を望む（現在）

〇湊川付け替え関連写真
⑦兵庫神戸実測図（明治14年）（過去：旧湊川付近）
⑧石井川と天王谷川の合流点（現在）
⑨夢野の丘小学校北側の新湊川トンネル入り口（現在）
⑩新湊川下流（駒栄橋付近）（現在）

〇旧湊川の跡地利用関連
⑪昭和４年の湊川公園（レファート写真コレクション：過去）
⑫湊川公園（神戸タワー跡の時計台：現在）
⑬新開地（アートビレッジセンター付近：現在）
⑭大正時代の新開地（レファート写真コレクション：過去）
⑮神戸港の変遷図（『神戸港ポートルネッサンス　開港120年のあゆみ』より）
⑯神戸市域の変遷図（神戸市ホームページより）
⑰神戸市新都市整備事業区域図（『新都市整備事業ガイド』より）

（２）資料提供学校数等（３年生）

令和２年度　28校　3,017人
令和３年度　32校　3,632人
令和４年度　37校
（市内学校数の約１／４）
4,390人
（市内児童数の約１／３）

３．小学４年生への資料の提供について

（１）基本的な支援の枠組みについて

４年生では学習の範囲を市域から兵庫県域に拡げるとともに、環境問題や災害学習のように、３年生より掘り下げた形での分野別の学習を社会科で行うこととなっています。

『わたしたちの神戸４年』にも掲載されているように、神戸市では昭和期において昭和13年の阪神大水害をはじめ、昭和36年、昭和42年と大きな水害が発生しました。国の直轄事業も行われ、砂防ダムの造成等、土石流に対する対策は進んでいます。他方、平成20年には都賀川での水難事故も発生し、特に表六甲の市街地においては、河川の急な増水による危険性の認識は、児童が自らの安全を考える上で、重要な学習項目のひとつです。

そこで、児童たちにも現在の景観と比較しやすいと想定できる生田川の水害の写真を中心に提供することとしました。実際に提供した主な写真や資料は次のようなものです。

⑲⑳㉑阪急百貨店（旧そごう）前（昭和13年災害時及び現在）
㉒㉓生田神社前（昭和13年災害時及び現在）
㉔㉕大丸前（昭和13年災害時及び現在）
㉖「神戸の地質・地形・気候」（神戸市建設局『こうべの川』0000より）
㉗暗渠化され公園となった生田川（過去）
㉘昭和12年当時の三宮（過去）
㉙激しい濁流の中で婦人を助ける男性（過去）
㉚昭和13年の際の生田川付近の被害状況図

（２）資料提供学校数等（４年生）

令和２年度　22校　2,362人
令和３年度　33校　3,742人
令和４年度　37校
（市内学校数の約１／４）

4,466 人
（市内児童数の約１／３）

４．今後の学校との連携について

（１）小学校における支援の強化について

①電子データ提供による利用の向上について

小学３年生・４年生に対する写真等の提供については、約４分の１の学校を対象として提供をしました。より一層の先生方の便宜を図るために、希望校には PDF データの提供形態を今後検討する必要があります。

②理科等の他教科での文書館資料の利用可能性の検討

文書館で所蔵する『神戸の地盤』（神戸市企画調整局総合調査課　1980 年発行）には市内のボーリングデータが掲載されています。身近な校区内での玉石の地層を確認する等、５年生の「流れる水のはたらき」や６年生の「土地のつくりと変化」の学習で利用の可能性についても、先生方からの指摘がありました。館蔵の歴史資料の活用のみにとどまらず、他分野での資料の活用といった側面や学校側のニーズを汲み取った視点での学校連携の可能性を探っていくことが必要と考えられます。

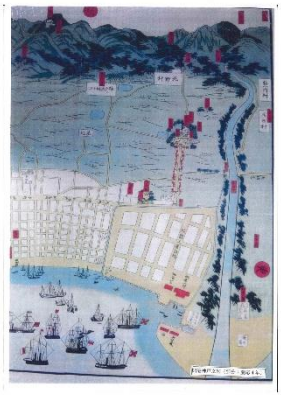
（２）中学校における地域調査の実施との連携

中学校社会科の学習指導要領に基づいて、教育委員会でも中学校の社会科における地域調査の授業の展開を検討しており、神戸の災害の歴史を踏まえ、地図を活用した地域調査も、学習展開の選択枝のひとつとして考えられます。その際には小学３・４年生で実施した地域の学習を踏まえ、発展させた授業の実施が想定されるところです。ただし、限られた授業時間数の中で、地域調査を実施するためには、具体的で適切な関連性のある地図等を使用した学習展開が求められます。今後は教育委員会と連携しながら、中学校の社会科教諭が使用可能な文書館の所蔵資料の活用の可能性を検討していくことも必要と考えられます。

（神戸市文書館館長）

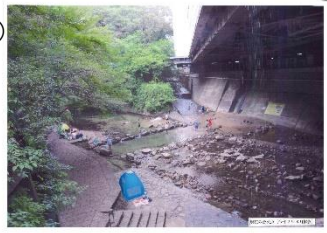
〔３年生に提供した写真〕

①



②

③



④

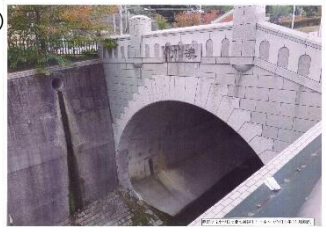
⑤

⑥

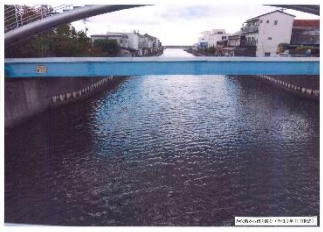
⑦

⑧

⑨



⑩



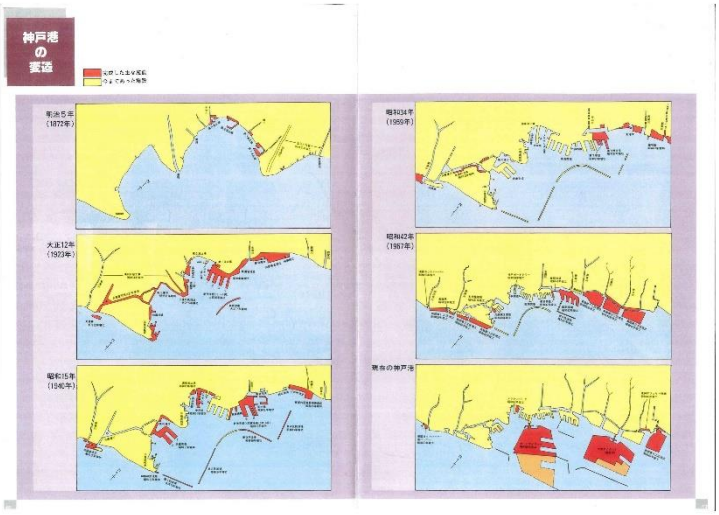
⑪

⑫

⑬

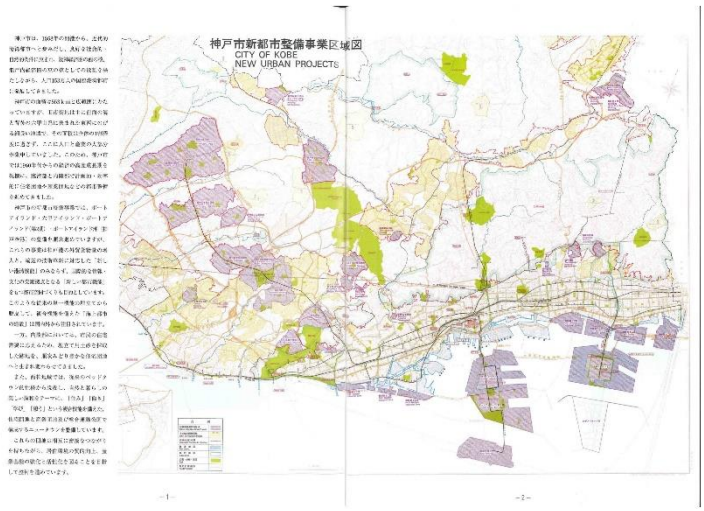
⑭

⑮



⑯

⑰



⑱

〔教材作成例〕

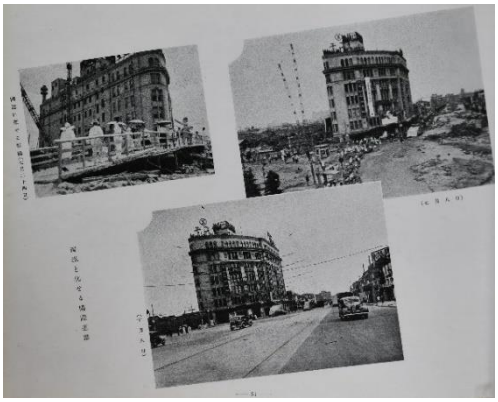
「お気に入りの神戸をしょうかいします」（表紙）

（神戸市立西舞子小　田中教諭作）

※今後とも、さまざまな先生方の実際の授業で使用された教材の蓄積があれば、より実践的・効果的な資料提供も行うことができると考えられた。

〔４年生に提供した写真〕

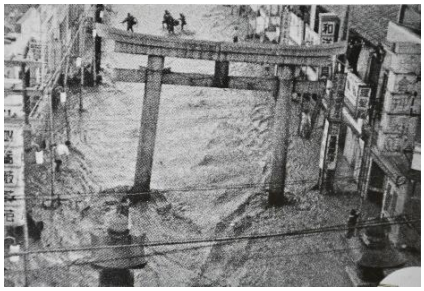
⑲



⑳

㉑

㉒

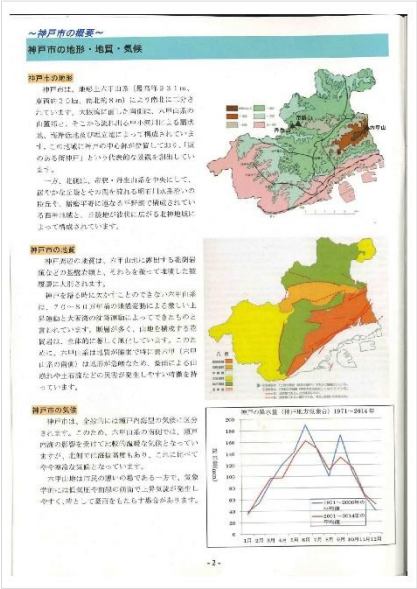


㉓

㉔

㉕

㉖



～神戸市の概要～

神戸市の地形・地質・気候

神戸市の地形

神戸市は、東西に六甲山系（最高峰931m、東西約30km、南北約8km）による地形に区分されています。大阪湾沿岸の海岸に、六甲山系の南麓部と、そこから流れ出る中小河川による扇状地、海岸沿を走り阪急電鉄によって構成されています。この地域に神戸の中心部が位置しており、「坂のある街神戸」という代表的な景観を創出しています。

一方、北側に、市民・観光の生活を中心にして、緑豊かな公園とその先を望む明石海峡大橋がいかに生き、緩傾斜地になるべく平面で構成されている西部地域と、山麓地の傾斜に広がる北神地域によって構成されています。

神戸市の地質

神戸市周辺の地質は、六甲山系に属する花崗岩類を主とする基盤岩類と、それらを覆って堆積した被覆層に大別されます。

神戸を囲む地区大きくしることのできない六甲山系は、アクロ8万年前の地殻変動による激しい上昇運動と大阪湾の沈降運動によってできたものと言われています。断層が多く、山麓を構成する花崗岩は、全体的に脆くもろいです。このため、六甲山系は地質的に脆弱で特に豊かな（石山系の崩壊）は活発な地域なため、豪雨による山崩れや土石流などの災害が発生しやすい特徴を持っています。

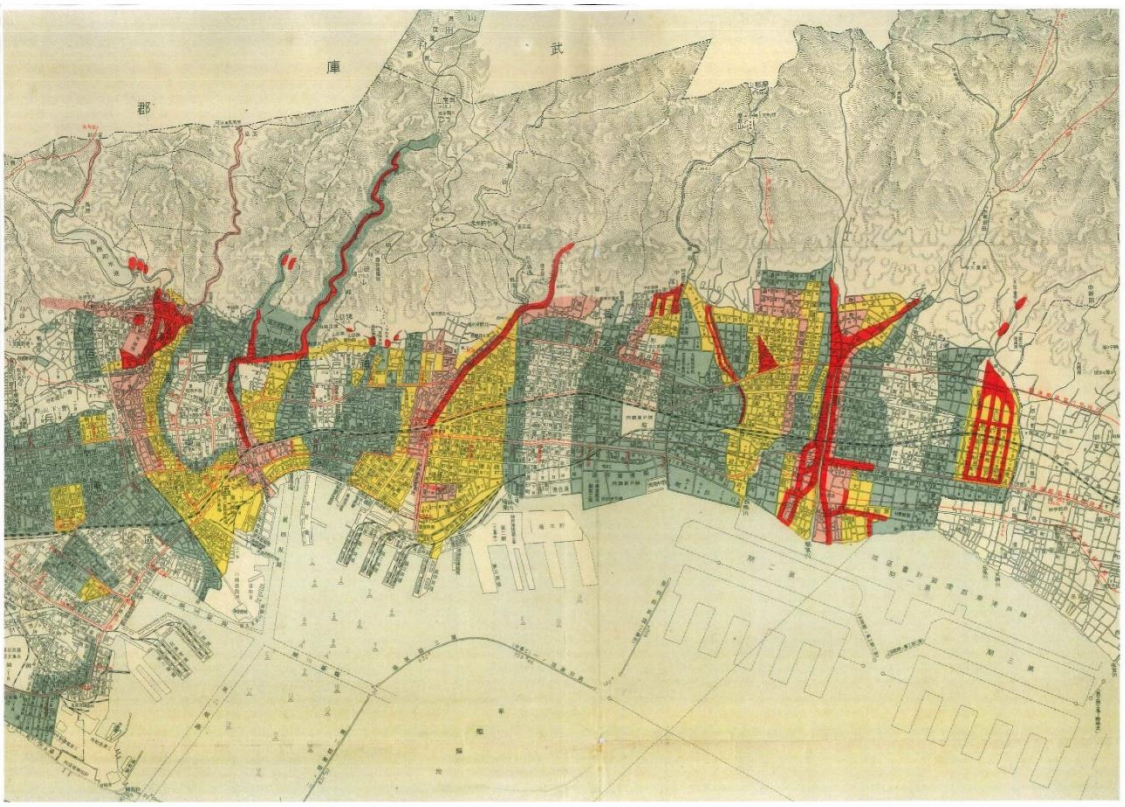
神戸市の気候

神戸市は、全国的には瀬戸内海型気候に区分されます。このため、六甲山系の南側では、瀬戸内海の影響を受けて比較的温暖な気候となっていますが、北側では高原高度もあり、これに対して冷涼な気候となっています。

六甲山地は市民の憩いの場であるが一方で、気象学的には気圧や地形の両面で上昇気流が発生しやすく、時として豪雨をもたらす場合があります。

㉗

㉘

㉙

㉚